

3. 選定地域(平成27年度)の構想の概要

平取町ひらとりちょうバイオマス産業都市構想の概要

北海道平取町、人口 0.6万人、面積 約7.4万ha

構想の概要

木質バイオマス燃料による農業用ハウスや公共施設への熱供給、住宅暖房用燃料のバイオマス化、木の駅プロジェクトなどの展開により、地域内の森林資源を有効活用し、基幹産業である農業に続く、バイオマス関連産業の育成等を目指す

1. 将来像

- ① 木質バイオマスを原料とした熱供給会社を設立し町内施設、住宅、農業ハウスに熱供給を進める
- ② 木質バイオマスを原料とした電力供給会社を設立し、売電事業を進める
- ③ 新たな会社設立による雇用の創出、エネルギーの地域循環、環境負荷の低減を図る

2. 事業化プロジェクト

- ① 農業ハウス用燃料のバイオマス化(トマトハウス用暖房をチップ、ペレット等木質ボイラーへ転換)
- ② 公共施設への率先導入計画の推進(公共施設の暖房の木質燃料化)
- ③ 木の駅プロジェクトの事業化(地域通貨や雇用創出と絡ませた林地残材収集システムの構築)

3. 目標(10年後)

- ① 農業用ハウス用燃料のバイオマス化(チップ6,300t/年・ペレット500t/年)
- ② 公共施設への導入→全体への普及(薪100t/年・チップ1,500t/年・ペレット780t/年)
- ③ 木の駅プロジェクトの普及・拡大(年間収集目標200t)
- ④ バイオマス利用に係る新たな産業の創出(林業、農業の活性化と新規産業と雇用の創出)(雇用創出7名)

4. 地域波及効果

- ① バイオマス資源の利用向上
 - ・熱供給公社の創設
 - ・ペレット工場の建設
 - ・既存事業者・森林組合等での新規雇用の可能性
- ② 雇用者数
 - ・熱供給公社創設で2名
 - ・関連事業で5名

5. 実施体制

・町、町民、森林組合やJAを含む関連機関等で構成される「平取町バイオマス産業都市構想推進委員会」を中心に事業を展開

6. その他

- ・第5次平取町総合計画(H18)
- ・平取町過疎地域自立促進計画(H22)
- ・平取町地域新エネルギービジョン(H20)
- ・びらとりあぐりビジョン2015(農業振興計画)(H22)



平取町公式キャラクター ピラッキー

平取町バイオマス産業都市構想 ~エネルギーの地産池消をめざして~

木質バイオマスの大きな可能性

- ・総面積743.09km²
- ・森林面積627.95km²
- 85%が森林
林地残材等の利用



めざすべき将来像

- ①新たな熱供給公社の設立による木質バイオマスの熱利用及び電力利用
- ②木質バイオマス利用に係る新たな産業の創出
- ③バイオマスの活用と平行したコンパクトなまちづくり



①農業ハウス用燃料のバイオマス化

- ・トマトハウス用暖房を現在の灯油から、チップ・ペレットなど木質系ボイラーへの転換を図る。
- ・熱供給公社などの設立で、より安価で求めやすい熱を提供し、農業事業の負担軽減を図る。



事業化プロジェクト

- ①農業ハウス用燃料のバイオマス化
- ②公共施設への率先導入計画の推進
- ③木の駅プロジェクトの事業化
- ④太陽光発電の設備の運用

④太陽光発電設備の運用

- ・バイオマス産業化をめざすにあたり、地域の低炭素化や遊休土地の有効利用などの観点から、地方自治体が事業主体となり、FIT(固定価格買取制度)を活用した太陽光発電施設の運用を図る。



②公共施設への率先導入計画

- ・バイオマス化の初期段階として、公共施設の暖房施設の木質燃料化を検討する。

現在、建て替えを予定している平取町立国保病院、平取町役場(本庁舎)や現在オール電化で、電力の高騰に伴う経費増大が問題化している中央公民館への導入を図る。



③木の駅プロジェクトの概要

- ・木の駅プロジェクトは、地域通貨や雇用創出と絡ませた「林地残材収集システム」のソフト事業。大規模なプラントがなくとも、販路のない間伐材、林地残材などを収集・搬出し、副業的な収入が生まれることでの、地域経済の循環を図る仕組みを構築し、運用していくことができる。

